

# 横浜植木(株) シードセンター



所在地：神奈川県横浜市南区唐沢15番地  
 建築面積：877.30㎡  
 延床面積：2,518.20㎡  
 構造・規模：鉄骨造、一部地下1階地上3階建  
 設計：株式会社建栄建築事務所  
 施工：建築／株式会社松尾工務店  
 電気／大江電機株式会社  
 オープン：平成22年12月

S97

明治23年に植物類の輸出入を行う商社として創業された横浜植木(株)。

農業・園芸などに関連する育種・生産・販売等を手がけることから、地球環境の保全にも積極的です。新しく完成したシードセンターには、高効率・省電力で環境負荷の少ないLEDベースライトが採用されました。

## 創立120周年を迎える、近代園芸の草分けとなった総合園芸会社

横浜植木(株)は、明治23年に日本人商社として初めて植物類の輸出入業務を行うため現在の地に創業され、現在は近代農業・家庭園芸・環境緑化工事・野菜及び花卉類の育種・開発・生産・販売などを手がける総合園芸会社となっています。農業分野では、種子新品種開発により、メロン、人参、葱、レタス、キャベツ、大根等を主力に全国の産地・生産者からの深い信頼と好評を得ています。これら野菜の種子の保管・物流・品質管理の拠点施設としてシードセンターが建設され、高効率・省電力でCO<sub>2</sub>排出量を削減する直付形LEDベースライトが採用されました。

## 研究室の照明にLEDベースライト出力重視タイプを採用し、発芽試験に必要な高照度を確保しつつ、省エネを実現

3階に配されている野菜種子の品質検査室の照明は、優れた省エネ性能と蛍光灯の3~4倍の長寿命(40,000時間)のLEDベースライトストレートタイプ出力重視タイプ調光可能形(消費電力78W、器具光束6,400lm、相関色温度5000K)を採用。FLR40W2灯用器具よりも明るく、発芽試験に必要な照度(平均照度1000lx)を確保しながら省エネしており、かつ下面アクリル拡散カバーにより光を柔らかく、室内全体を包みこむ拡がりのある視環境をつくり出しています。LED特有の適度なキラメキ光とRa70以上の高演色により、発芽の状態、色合いを自然に見せているとともに、熱線・紫外線もほぼゼロなので、安心して発芽試験を行う環境が得られています。

品質検査室への入口・通路は、LEDベースライトストレートタイプと人感センサーとの組み合わせにより、人がいないときは25%に減光制御を可能とし、さらに消費電力を抑制しています。共用廊下の照明は、FHF32W薄形直付下面開放器具と人感センサーとの連動で人の動きを検知して、人がいるときは100%点灯、人がいないときは自動消灯を行い、ムダなあかりをカットして省エネを図っています。



人工気象器などが配置され、野菜の発芽の試験が行われる品質検査室の照明 優れた省エネ性と長寿命のLEDベースライトスクエア器具を採用



発芽を保障できる品質の検査が行われる発芽試験室の照明 LEDベースライトでまんべんなく室内の明るさを確保



LEDベースライトによる事務室の照明



Hf蛍光灯器具と人感センサーによる自動ON/OFF制御を行っている廊下の照明

### 主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	ランプ・備考
室内	LEDベースライトストレートタイプ	LEDT-65001W-LD9	66	LED 消費電力:78W
	蛍光灯直付器具	FHT-42404-PM9	195	32WHf蛍光灯ランプ×2